

第2回

京都

都市緑化

写真コンクール

入賞作品集

(昭和61年度)

主 旨

緑とオープンスペースは、大気の浄化、気温の調整など良好な環境づくりに大切な役割を果たしているほか、潤いのある生活環境の確保、レクリエーションの場の提供など多くの役割を担っており、安全で快適な都市環境の形成に欠くことのできないものです。

このような緑の重要性と都市緑化の必要性に対する理解を深めるために、10月を「都市緑化月間」と定め、今年度も全国各地で緑と公園に関するさまざまな行事が行われました。

京都では、この「都市緑化月間」の行事のひとつとして「緑と調和した景観美」「都市緑化の必要性をアピールし、そのあり方を示唆するもの」を主題とした「第2回京都市都市緑化写真コンクール」を行い、多数の応募作品の中から優秀な作品28点を入賞作品として選びました。

京都府都市計画協会
京 都 府・京 都 市

入賞作品一覧

京都府知事賞	「けやき並木に鈴が通る」	辻 井 勲
京都市長賞	「窓辺の緑」	田 中 賢 司
京都新聞社賞	「心やすまる緑」	一 井 由 清
優 秀 賞	「みどりの散歩みち」	山 田 稷
	「生きる」	岡 代 立 男
	「園の森」	滝 本 正 雄
	「緑の茶店」	藤 本 正 則
	「雨の白川」	原 田 弘 一
佳 作 (順不同)	「緑あふれるニュータウン」	中 川 敦 夫
	「街のオアシス」	中 川 敦 夫
	「萌ゆる紋様(植物園)」	三 上 敏 雄
	「緑の朝」	辻 井 勲
	「洛西ニュータウンA」	日 永 潤 作
	「洛西ニュータウンB」	日 永 潤 作
	「初秋の並木道」	橋 本 健 治
	「街角の景観」	橋 本 健 治
	「並木道」	大 塚 修 司
	「やすらぎ」	森 吉 美 禰 子
	「並木が映える街」	金 田 悦 二
	「緑のつづく街」	斎 藤 悟
	「セミ取り」	関 本 信 夫
	「花時計」	高 岡 洋 文
	「玄関の美」	安 達 貞 義
	「昼下り」	岡 代 立 男
	「ペタルも軽く」	永 砂 重 次
	「緑ある団地」	久 保 田 茂
	「秋の緑の道」	松 尾 文 治
	「緑のある交差点」	松 尾 文 治

京都府知事賞



「けやき並木に鉾が通る」 辻井 勲

京都市長賞



「窓辺の緑」 田中賢司

京都新聞社賞

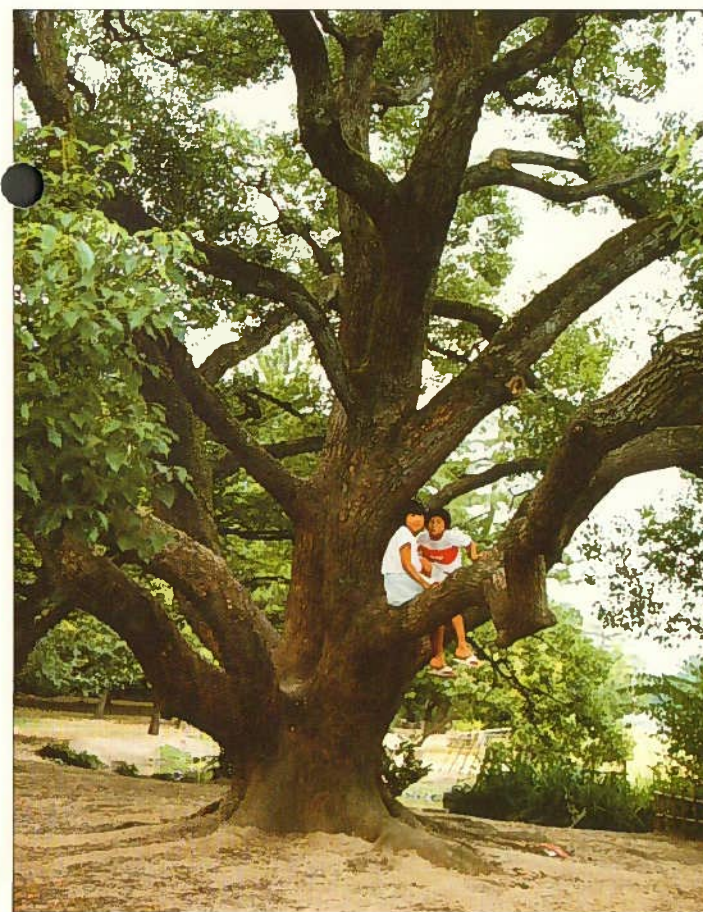


「心やすまる緑」 一井由清

優秀賞



「みどりの散歩みち」
山田 稷



「生きる」
岡代立男

優 秀 賞



「園の森」 滝本正雄



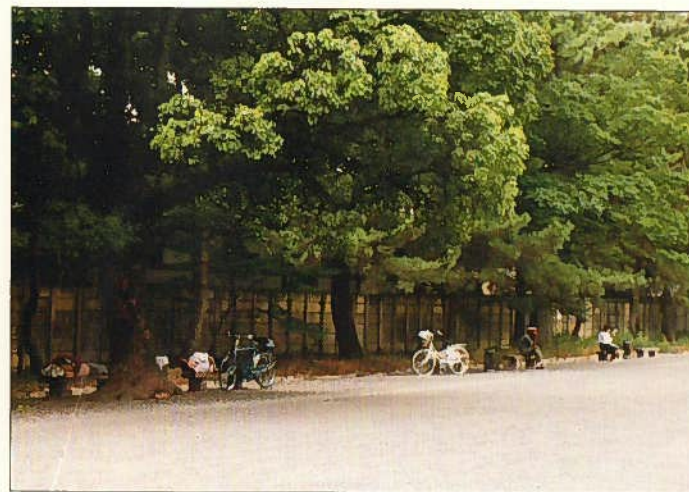
「緑の茶店」 藤本正則

優 秀 賞



「雨の白川」 原田弘一

佳 作



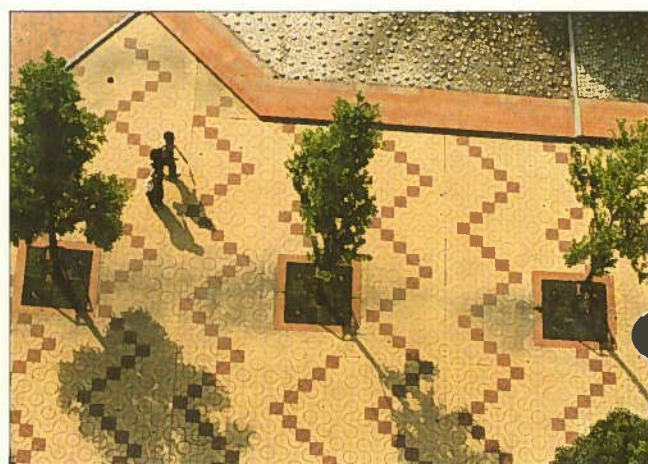
「昼下り」 岡代立男



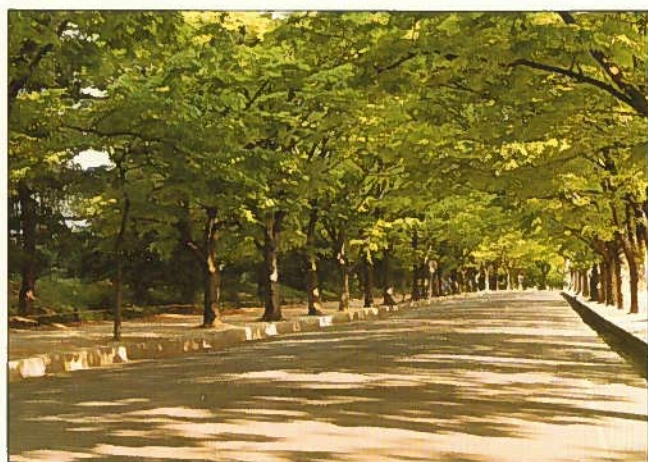
「緑の朝」 辻井 勲

佳 作

「緑あふれるニュータウン」
中 川 敦 夫



「街のオアシス」 中 川 敦 夫



「萌ゆる紋様(植物園)」 三 上 敏 雄



「初秋の並木道」 橋 本 健 治

佳 作



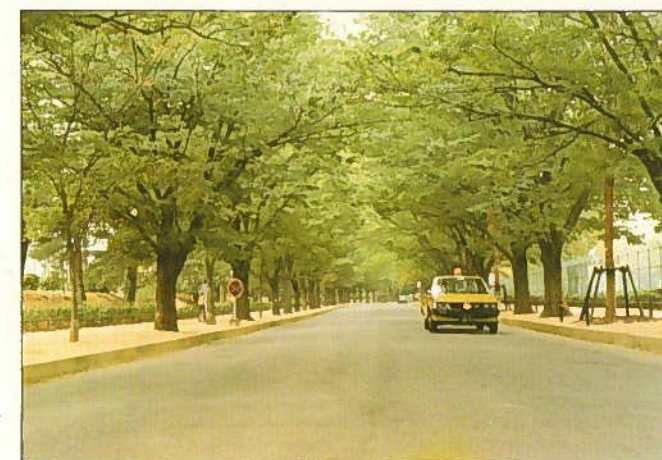
「洛西ニュータウンA」日 永 潤 作



「洛西ニュータウンB」日 永 潤 作



「街角の景観」橋 本 健 治



「並木道」
大 塚 修 司



「やすらぎ」
森 吉 美 禰 子



「緑のつづく街」
斎 藤 悟



「花時計」
高 岡 洋 文



「ペタルも軽く」
永 砂 重 次



「玄関の美」
安 達 貞 義



「緑ある団地」 久保田 茂



「セミ取り」 関 本 信 夫

「並木が映える街」
金 田 悦 二



「緑のある交差点」
松 尾 文 治



「秋の緑の道」
松 尾 文 治

第2回京都都市緑化写真コンクール 講評

古都保存文化写真協会会長

写真作家 小 林 文 司

京都都市緑化写真コンクールも今年は2回目を迎え、応募者は「テーマ」の主旨を良く理解して作品を応募されているだろうと、期待をもって審査にあたりましたが、残念ながらその予想は大きく外れる結果となりました。

このコンクールに関心のある応募者にとっては、ほぼ一年の撮影期間があり、また昨年発表された上位作品も展示され、その作品集の冊子も出来ているので、それらを参考にして、より突込んだ内容のあるものが出来たはずなのに、結果は、逆効果となって表われているように思います。

まず言えることは、昨年のトップ河野氏の「緑豊かな幹線道路」の作風を真似て、これに類似したものが大半を占めていたことです。良い作品を参考にするということは大切ですが、その作品の中に流れている作者の思想を十分に理解して、それを新しい視点から作品に仕上げて行くということが必要であろうかと考えます。もう少し作品を意欲的に創造して行ってもらいたいと、奮起を促します。

たしかに、このコンクールのテーマは一般レベルには漠然としていて作画に苦勞するところもあるでしょうが、作画に当って必要なことは、真剣な取り組みと、突込み方であると思います。

昨年の講評でも触れておきましたが、既存のモチーフを追いかけずに、京都府下における緑化運動を啓発する、内容のある作品を期待していたのです。そういう意味では、知事賞に入賞した作品は、その点の計算された京都に相応しい作品です。また市長賞の作品は、そこから啓蒙標語が出てくる様は作品で好感がもてました。

最後に、何度も繰り返しますが、来年もこのコンクールが催されるのであるなら、応募諸氏が奮起され、コンクールが充実、発展し、府民の緑に対する関心が少しでもたかまって行くことを切に希望してやみません。

■主催／京都府都市計画協会

■共催／京都府・京都市

■後援／建設省、京都府公園公社、京都府市長会、京都府町村会、京都新聞社、KBS京都、NHK京都放送局

■協賛／京都造園建設業協会、京都府造園組合連合会、京都府写真材料商業組合、京都商工会議所、京都ライオンズクラブ、京都銀行、京都信用金庫、京都中央信用金庫、伏見信用金庫、西陣信用金庫、小西六写真工業株式会社、日本造園修景協会京都府支部
(順不同)